



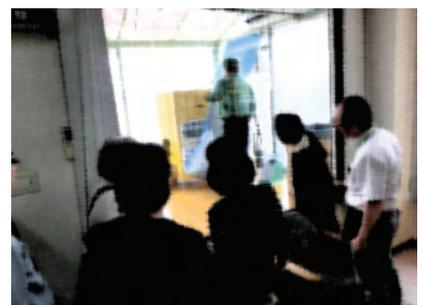
PS（ポリスチレン）樹脂生産の 障害者等作業所モデル事業

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

<事業成果報告書>

平成 25 年 3 月

特定非営利活動法人 みんなの NPO



はじめに

特定非営利活動法人 みんなの NPO は 「みんなの“働く”をつくろう」をテーマに活動しています。

- 働くことには、生活に必要な収入を得るというだけではなく、私たちに地域社会の一員としての実感をもたらすという、大切な価値が伴います。
- そして、障害がある、高齢である、子育て中である、治療中で活動に制約がある、虐待を受けて育った、などといった様々な条件からの多岐にわたる「働きづらさ」は、決して誰か縁無き他者のものではなく、私たちみんなの「働きづらさ」です。
- にも拘らず、そうした「働きづらさ」に応える働く場や条件は、地域社会の中に十分に用意されていません。私たちは、こうした多様な「働きづらさ」を包摂する地域社会の実現に少しでも寄与すべく活動を進めています。

この事業はその第一歩として、「障害のある人とその家族等が、自ら資源循環型社会の形成に寄与する事業者として開業・経営できるよう支援すること」を目的とするものです。

- 平成 24 年度は、所期の目的のため「収益性・安全性の高い、高品質のスチレン樹脂を生産する小型装置を活用した小人数の作業所の事業モデルの有効性を示すパイロット・モデルづくりと、将来的に事業主となる意欲のある地域人材の発掘」に取り組みました。
- 実施にあたっては、独立行政法人福祉医療機構様の社会福祉振興助成事業「全国的・広域的ネットワーク活動支援事業」のうち、「高齢者・障害者の特性に応じた就労支援に関する事業」の助成テーマのもとで助成決定を頂いています。
- 当法人として初めての大きな事業です。今後の事業展開に資する成果が得られたこともあれば、十分な成果に届いていないこと、様々な課題もありますが、その内容を取りまとめて、この事業成果報告書を作成したところです。

< 謝 辞 >

事業実施においては、独立行政法人福祉医療機構様から数々のご指導を頂くとともに、助成事業における連携団体として、特定非営利活動法人京都市肢体障害者協会様、京都府再資源化事業協同組合様、並びに有限会社ラブロン様に多大なるご協力を頂きました。

また、モデル作業所の運営等においては、株式会社ナプラス様、社会福祉法人徳真会たけのこ園様、株式会社東洋様、ボランティアの皆様からひとかたならぬご支援を賜るとともに、株式会社玉山工業様、特定非営利活動法人エジュケーショナル・コンピューティング・アンド・サポート様にも実行委員の立場からご助言等を頂いたところです。

このほか体験・研修会にご参加頂いた皆様をはじめ、すべての関係者各位に深く御礼申し上げますとともに、今後とものご指導・ご鞭撻、さらなるご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成 25 年 3 月吉日

特定非営利活動法人 みんなの NPO
代表理事 廣部 出

目 次

1. 事業概要	1
(1) 事業の背景	
(2) ビジネスモデルの実証と普及	
2. 実行委員会の開催	3
(1) 会議の設置	
(2) 委員構成	
(3) 開催日時と議題	
(4) 会議の成果・反省等	
3. 実機を用いた体験・研修会	6
(1) 開催概要	
(2) 参加概況	
(3) 参加者アンケート結果	
(4) 体験・研修会の成果・反省等	
(5) 新聞記事の掲載	
4. パイロット・モデル作業所の開設・運営	10
(1) モデル作業所	
(2) 作業所の開設・運営	
(3) 実証事業としての成果と課題	
5. 今後の事業展開に向けて	17

1. 事業概要

(1) 事業の背景

① 概況

障害があると働きたくても働けない、福祉的就労の事業力は弱い！

障害のある人で、働く意欲と能力があっても就職できずにいる人が全国に約 15 万人いるとされます。平成 22 年度の厚生労働省の調査では、障害のある人の就労に係る全施設の平均工賃は 19,315 円であり、時給換算で 138.0 円（20 日／月、7 時間／日で試算）に留まるとともに、福祉的就労に用いる事業の多くは、事業自体の力ではなく、制度・施策によって、その収支を支えている例が少なくありません。

発泡スチロールは使い捨て？ 資源の再利用が進んでいない！

2011 年の発泡スチロールの用途別出荷量は、容器が約 83,300t（約 56%）、緩衝剤・他が約 44,900t（約 30%）、建材・土木が約 21,300t（約 14%）となっていますが、その使用済みの資源は、まだまだ多くが廃棄・焼却され、他方で、資源を多く輸入している状況にあります。

② 課題

アジアにおいて大幅な諸資源の需要拡大が見込まれる中、円高や原油価格の高騰などによって、わが国が深刻な資源不足に至るリスクが想定できます。国内で廃棄される資源を循環させることは、わが国としても重要な課題であり、この課題に即応する中で、地域社会が備えるべき資源循環の仕組みを新たにつくることが重要です。私たちは、この、新たな仕組みづくりの必要を好機と捉え、インクルーシブな社会づくりを前進させる必要があります。

③ 課題即応のビジネスモデル

そこで、当法人では、小地域を単位とした発泡スチロール等の資源リサイクルの仕組みを新たに構築し、障害のある人等にとって安全で作業性がよく収益性が高い事業で担うことを提案しています。なお、これを進めるためには、既存の使用済み資源の処理を取り巻くステークホルダーに対して目に見えるメリットを示すことが求められます。

(2) ビジネスモデルの実証と普及

当事業で計画する「作業所」は、自立支援法による就労継続支援事業所ではありません。小地域の資源循環に根ざし、障害のある人等の雇用を生むために開発された装置を用いて独自の採算をつくるビジネスモデルであるとともに、発泡スチロール大量排出者に対して、その従来处理費・運搬費の確実な縮減と CSR の取り組みを提案できるビジネスモデルです。

本事業は、このビジネスモデルの有効性を裏付ける実績をつくり示すために行ったものであり、将来の全国展開なども視野に入れて検討することとしました。また、実際の事業資源をより多くの人にご覧頂き、また、ビジネスモデルについてご説明する機会をつくることで、今後の作業所の運営に意欲ある地域人材の発掘に努めたところです。

具体的には、以下の3つの取り組みを行っています。

- ① 実行委員会の開催
- ② 実機を用いた体験・研修会の開催
- ③ パイロット・モデル作業所の開設・運営

それぞれの取り組みは、特定非営利活動法人みんなの NPO が幹事団体となり、特定非営利活動法人京都市肢体障害者協会、京都府再資源化事業協同組合、有限会社ラブリオンが緊密に連携しつつ推進しました。

2. 実行委員会の開催

(1) 会議の設置

事業中に生じた状況を会議の場で報告・共有し、課題について協議・検討することで事業の円滑な推進に協力すること、また、実機を用いた体験・研修会の実施とパイロット・モデル作業所の運営に寄与することを目的として設置しました。当法人代表理事を委員長とし、京都分会と橿原分会に適任者を選任して開催したところです。

(2) 委員構成

(順不同・敬称略)

【委員長】

廣部 出（特定非営利活動法人みんなのNPO 代表理事）

【委員（京都分会）】

日野 勝（特定非営利活動法人 京都市肢体障害者協会 副理事長）

長田 佐吉（特定非営利活動法人 京都市肢体障害者協会 エコ・スマイル事業営業主任）

藤井 堅太郎（株式会社ナプラス 代表取締役社長）

玉山 久高（株式会社玉山工業 代表取締役社長）

奥村 文浩（特定非営利活動法人 エジュケーショナル・コンピューティング・アンド・サポート 理事長）

会場：京都中央ビル 2 階会議室（京都市伏見区）

【委員（橿原分会）】

八百本 哲（社会福祉法人 徳眞会 たけのご園 施設長）

藤井 堅太郎（株式会社ナプラス 代表取締役社長）

玉山 久高（株式会社玉山工業 代表取締役社長）

斉藤 輝久（株式会社玉山工業）

香川 勤（有限会社ラブロン、有限会社ホームズ 取締役）

会場：大和開発ビル 8 階会議室（奈良県橿原市）

(3) 開催日時と議題

第1回：【京都】平成24年 8月 18日（土） 15時～17時

- ・ 事業概要について
- ・ 実行委員会の設置について
- ・ 年度スケジュールについて
- ・ 実機を用いた体験・研修会の実施について
- ・ パイロット・モデル作業所の開設について

第2回：【橿原】平成24年 9月 9日（日） 15時～17時

- ・ 事業概要について
- ・ 実行委員会の設置について
- ・ 年度スケジュールについて
- ・ 実機を用いた体験・研修会の実施について
- ・ パイロット・モデル作業所の開設について
2台（2か所）の稼働開始の報告 等

第3回：【京都】平成24年 10月 27日（土） 15時～17時

- ・ 実機を用いた体験・研修会の総括
- ・ パイロット・モデル作業所の運営概況について
2台（2か所）の稼働状況の報告
3台（2か所）工事済み→設置遅延・留保・設置先変更等の報告
1台（1か所）稼働開始困難の報告 等
- ・ パイロット・モデル作業所の設置計画の見直しについて

第4回：【橿原】平成24年 12月 15日（土） 15時～17時

- ・ 実機を用いた体験・研修会の総括（報告）
- ・ パイロット・モデル作業所の運営概況について
2か所（2台）の稼働状況の報告
3か所（3台）の稼働開始の報告
1か所（1台）の稼働開始決定の報告 等
- ・ パイロット・モデル作業所の設置計画の見直しについて
- ・ 事業計画の修正・変更についての報告・対応協議

第5回：【京都】平成25年 2月 2日（土） 15時～17時

- ・ 変更事業計画の確認
- ・ パイロット・モデル作業所の運営総括
6か所（6台）の稼働状況の報告 等
- ・ 新年度（助成事業完了後）の事業展開について
- ・ 報告書の作成について

（4）会議の成果・反省等

実行委員会は、障害当事者、装置メーカー、障害福祉施設、企業経営者など、ビジネスに関わる様々な立場からの意見が交わされる場として有意義な開催でした。例えば、体験・研修会で「装置の中が見える窓があるほうが楽しい」といった声があったことについても、実装には至っていませんが、実行委員会の場で装置メーカーにフィードバックし皆で共有することができました。その一方で、モデル作業所に係る取り組み推進等に事務局の労力が大きく割かれたことから、後半、進捗報告に留まる会議となったことも否めません。



3. 実機を用いた体験・研修会

(1) 開催概要

資源のコンビニ横大路店（京都市伏見区）を会場に、京都府再資源化事業協同組合から講師をご手配頂いて、以下の5回を開催しました。各回とも、趣旨説明、実機の稼働状況の視察、作業体験を参加者に行って頂き、その後、ビジネスモデルの説明会と感想・意見の交換を行いました。

第1回：平成24年 9月22日（土）

第2回：平成24年 9月29日（土）

第3回：平成24年 10月13日（土）

第4回：平成24年 10月20日（土）

第5回：平成24年 10月27日（土）

※当初の城陽市開催予定は変更。



参加無料 独立行政法人福祉医療機構 平成24年度社会福祉振興助成事業
（PS 製菓生産の障害者等作業所モデル事業）

発泡スチロールリサイクルの体験・研修会！

- ★ 使用済発泡スチロールを原料としてスチレン樹脂を生産する仕事の体験・研修会です。
- ★ 用いる装置は、障害のある人が作業できるように開発されています。
- ★ 障害のある人とそのご家族の方、是非ご参加下さい。
- ★ スーパーや電気店など多量の発泡スチロールの処分にお困りのお店のご社長様、是非ご参加下さい。 **処理費が“無料”になります！！**

開催日：会場1（伏見区）9/22(土)・10/13(土)・20(土)・27(土)
会場2（城陽市）9/29(土) 時間：10:00~13:00 (9/22のみ 14:00~18:00)

お問い合わせはコチラ！ 主催：特定非営利活動法人 みんなのNPO
TEL：075-603-7555 FAX：075-603-7774
e-mail：minna.no.npo@gmail.com
協力：京都府再資源化事業協同組合

● 参加ご希望の方は、上記問い合わせ先までご連絡ください！
● 参加希望日・参加人数・代表者名・ご連絡先をお聞かせ頂き、先着順にて調整の上、ご案内申し上げます。

■資源のコンビニ横大路店様

■株式会社ナプラス様

(2) 参加概況

リサイクル事業者、機器メーカーの協力のもとで、実機を用いてビジネスモデルを説明し、将来、自ら事業者となることを検討する地域人材を発掘することを目的として実施し、障害のある人とその家族等で、当ビジネスモデルに関心がある人などの参加を求めたところ、障害当事者やその家族、障害福祉施設職員、環境問題に係る市民活動団体、商店街、発泡スチロールの処分に困っている企業などからご参加頂きました。各回の参加人数は以下の通りです。

第1回 3名

第2回 5名

第3回 6名

第4回 7名

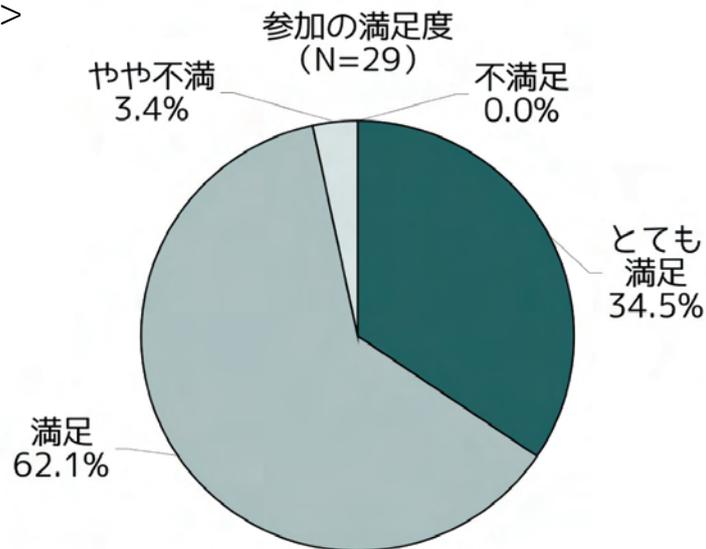
第2回 8名



(3) 参加者アンケート結果

ご参加頂いた皆様に、簡単なアンケートにご回答頂きました。結果の概要は以下の通りです。ビジネスモデルのわかりやすさと可能性、作業の容易さなどを実感して頂けたところです。

<参加の満足度>



<主な感想>

- ・ 装置の説明もビジネスモデルの説明も、とてもよく理解でき、イメージ展開もできやすかった。
- ・ リサイクルの取り組みを通じて雇用についての様々な可能性があることを感じました。
- ・ 将来の展開が楽しみに感じました。
- ・ 障害者施設の<自立支援>活動に生かせる発想は期待大。
- ・ 障害者の仕事を考えていく中で、工賃、作業などが目に見えてわかりやすく、バランスのとれた仕事になり、いろいろな幅が広がりそう。
- ・ 作業も簡単で体の不自由な利用者にもできそうだと思います。
- ・ においと音が気になりました。
- ・ 実体験が出来てよかった、作業内容には満足できた。
- ・ 発泡スチロールがほぼ原料に戻る仕組みが良かったのが良かった。
- ・ 今まで処理に悩んでいたため良かったと思う。

(4) 体験・研修会の成果・反省等

参加者からは、ビジネスモデルについての一定の関心が寄せられるとともに、作業が容易であること、事業の意義についてご確認頂けましたが、一步踏み込んで、事業の担い手等となることを考えて頂くなど、次の展開に結びつくきっかけを得るには至りませんでした。ご参加頂いた方に対して、今後とも継続的な情報提供等を行い、実際の作業所開設においての担い手や支援者となって頂けるよう図る必要があります。

また、各回の参加者の確保に苦勞し、全5回で29人の参加に留まりました。体験・研修会について新聞掲載して頂いたことなどもあり、後半の参加者は若干増えましたが、「障害者雇用」「資源リサイクル」「一挙両得」といった記事内容になったことで、「雇用説明会」といった誤解を持ってお問い合わせ頂いたりご参加頂いたりした方が複数ありました。今後とも、こうした誤解（期待）が生じやすいことについて、十分な配慮が必要と再認識したところです。

(5) 新聞記事の掲載

体験・研修会については、新聞取材を頂いて、大きく紙面に取り上げて頂きました。一定の反響があり、新聞記事を見てご参加頂いた方も数名おいででした。



カラー写真入りで大きく扱って頂いた記事。第1面にもカラー写真入りのリード記事（上部）を掲載頂いた。

4. パイロット・モデル作業所の開設・運営

(1) モデル作業所

本事業では、スチレン樹脂生産装置「ちいさくな〜れ」を6台購入し、これを用いて使用済み発泡スチロールをスチレン樹脂にリサイクルする小作業所を開設・運営することで、ビジネスモデルの実証実験を行いました。

当初のビジネスモデルでは、平成24年3月（助成申請時）の段階では、3台の装置を1か所に設置して運営する形態を想定していました。その後に、1台の装置の生産能力が高いことで、1か所で装置3台に十分量の使用済み発泡スチロールを集めることが困難であることが明らかとなってきたため、助成決定までの間に、1か所1台または1か所2台での開設・運営を行うこととし、計画の見直しを行ったところです。

ビジネスモデルの概念図



(2) 作業所の開設・運営

本事業では、最終的に5か所のモデル作業所を開設でき、総計で39,534kgのスチレン樹脂を生産して、1,186,020円を売り上げが得られました。これらから事務手数料29,000円と振込手数料を除いた約115万円すべてを工賃として支払うことができました。

作業所の開設においては、実業として様々な紆余曲折が生じたので、5回の実行委員会の開催時点で整理した開設・運営状況を基本として、以下に時系列でまとめます。

(8月18日：第1回実行委員会時点)

作業所		概況
A	京都府城陽市久世荒内160-12 株式会社ナプラス様事業場内	・ 発泡スチロールリサイクル事業者の協力を得て、十分な原料提供がある状態での稼働状況を実証する運び。
B	京都府宇治市向島で検討中 (O委員自宅近傍のスーパー)	・ O実行委員のご協力のもと、スーパーに使用済み発泡スチロール等のご提供を頂くため、営業活動を展開中。
C	京都市山科区 株式会社東洋様の協力を得ることが決定	・ キヤノン西日本代理店のため、梱包用の発泡スチロールのご提供が見込める。
D	奈良県橿原市 社会福祉法人 徳真会 たけのこ園 様事業場内	・ 知的障害者就労移行支援〔一般型〕・就労継続支援〔B型〕事業所の施設ピロティ部分への設置を予定。
E	奈良県橿原市 近鉄岡寺駅前の空き店舗	・ 2台設置に向けて改修準備中。 ・ 有限会社ラブロン、大和開発株式会社に運営のバックアップを頂く予定。

(当初計画イメージ)

- A：原料確保に不自由しない場所での運営（装置性能と作業性の検証）
- B：障害当事者（肢体不自由等）による運営（小地域での拠点性発揮の検証）
- C：原料排出先での運営（ビジネス連携の検証）
- D：障害福祉施設での運営（従事者研修等の検証）
- E：鉄道駅前での展示場型での運営（交流機能の検証）

(9月9日：第2回実行委員会時点)

作業所		概況
A	京都府城陽市久世荒内 160-12 株式会社ナプラス様事業場内	・ 8月31日に装置を設置。9月3日から稼働を開始している。
B	京都府宇治市向島で検討中 (O委員自宅へ変更)	・ スーパー設置を断念し、O委員自宅で設置準備を開始。 ・ 原料確保のための営業活動は継続。
C	京都市山科区 株式会社東洋様の協力を得ることが決定	・ 設置場所を確保し10月初旬に工事予定。 ・ 原料確保のための営業活動を展開。
D	奈良県橿原市 社会福祉法人 徳眞会 たけのこ園 様事業場内	・ 9月1日に装置を設置。9月3日から稼働を開始している。
E	奈良県橿原市 近鉄岡寺駅前の空き店舗スペース	・ 9月3日から改修工事を開始、工事中。

この時点で、作業所A、Dについては、当初計画通りの進捗が得られています。

しかし、作業所Bにおいてはスーパーとの連携のもとで小地域の拠点性をどのように発揮できるかという観点での運営を企図していましたが、当該スーパーとの交渉が難航し、設置場所の変更を行うこととなりました。

また、作業所Cにおいても、先方事業所の本業の状況変化との関係の中で、なかなか設置に至る準備が整わない状況となったところです。



作業所D

(10月27日：第3回実行委員会時点)

作業所		概況
A	京都府城陽市久世荒内 160-12 株式会社ナプラス様事業場内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 装置の稼働能力を最大限に生かして生産中。 ・ 9月度実績 3,807kg。
B	〇委員が通える距離にある「資源のコンビニ横大路店」へ設置先変更を検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業先スーパーとの調整がつかず、営業先の確保に手詰まり感。 ・ 11月生産開始に向けて方針転換。
C	京都市山科区 株式会社東洋様の協力を得ることが決定したが、設置予定場所が一時的に使用不可となった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時的に置かれた資機材が、別の支店に移動されるのを待つ必要が生じ、電気工事の完了が11月末頃となる予定。営業活動は継続中。
D	奈良県橿原市 社会福祉法人 徳真会 たけのこ園様事業場内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設事業の一環として作業を請け負って頂き、生産中。 ・ 9月度実績 238kg。
E	奈良県橿原市 近鉄岡寺駅前の空き店舗スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気工事を完了したが、この間の実績で、営業先の確保に手詰まり感。 ・ 原料提供者近傍への設置先変更検討のため、設置を留保。

この時点で、作業所B、Eについて、計画を大きく見直すこととなりました。また、作業所Cについても、さらに進捗に遅れが生じることとなっています。



作業所E：近鉄岡寺駅前の空き店舗

(12月15日：第4回実行委員会時点)

作業所		概況
A	京都府城陽市久世荒内 160-12 株式会社ナプラス様事業場内	・ 10 月度実績 4,382kg、11 月度実績 4,204kg。
B	京都市伏見区横大路芝生 30 番地 4 「資源のコンビニ横大路店」様事業場内	・ 11 月 26 日から生産開始。
C	京都市山科区柳辻草海道町 9-5 株式会社東洋様事業場内	・ 12 月 3 日から生産開始。
D	奈良県橿原市 社会福祉法人 徳眞会 たけのこ園 様事業場内	・ 10 月度実績 275kg、11 月度実績 264kg。
E	奈良県橿原市見瀬町 595-3 近鉄岡寺駅前の空き店舗スペース	・ 12 月 3 日から 1 台で稼働開始。 ・ 作業所管理は有限会社ラブロン様。
	作業所 E → A に設置変更	・ 作業所 E に設置を予定していた装置 1 台を作業所 A の増設とし、1 月からの稼働開始を予定。

設置場所の確保に行き詰まり、作業所 B については「資源のコンビニ横大路店」様に設置させて頂くことになりました。また、作業所 E に設置を予定していた 2 台のうちの 1 台については、作業所 A に増設することとし、株式会社ナプラス様に原料提供も含めて、さらにご協力頂くこととなりました。なお、進捗が遅れていた作業所 C についても、ようやくこの段階で運営開始に至りました。

(2月2日：第5回実行委員会時点)

作業所		概況
A	京都府城陽市久世荒内 160-12 株式会社ナプラス様事業場内	<ul style="list-style-type: none"> 12 月度実績 3,610kg、1 月度実績 3,603kg。 増設装置が1月15日から生産開始。 1 月度実績 2,613kg。
B	京都市伏見区横大路芝生 30 番地 4 「資源のコンビニ横大路店」様事業場内	<ul style="list-style-type: none"> 11 月度実績 32kg、12 月度実績 110kg、1 月度実績 111kg。
C	京都市山科区柳辻草海道町 9-5 株式会社東洋様事業場内	<ul style="list-style-type: none"> 12 月度実績 455kg、1 月度実績 451kg。
D	奈良県橿原市 社会福祉法人 徳眞会 たけのこ園 様事業場内	<ul style="list-style-type: none"> 12 月度実績 222kg、1 月度実績 225kg。
E	奈良県橿原市見瀬町 595-3 近鉄岡寺駅前の空き店舗スペース	<ul style="list-style-type: none"> 12 月度実績 446kg、1 月度実績 449kg。

ようやく全6台の稼働が揃いました。その後、3月15日を運営終了日とし、生産高をすべて集計したものが下表になります。

(kg)

	作業所	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生産量	A	3,807	4,382	4,204	3,610	3,603	3,798	2,198	25,602
	A-2					2,613	3,798	2,201	8,612
	B			32	110	111	117	68	438
	C				455	451	466	268	1,640
	D	238	275	264	222	225	238	137	1,599
	E				446	449	472	276	1,643
	合計								39,534

(円)

	作業所	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生産高	A	114,210	131,460	126,120	108,300	108,090	113,940	65,940	768,060
@30円/kg	A-2					78,390	113,940	66,030	258,360
	B			960	3,300	3,330	3,510	2,040	13,140
	C				13,650	13,530	13,980	8,040	49,200
	D	7,140	8,250	7,920	6,660	6,750	7,140	4,110	47,970
	E				13,380	13,470	14,160	8,280	49,290
	合計								1,186,020

(3) 実証事業としての成果と課題

本事業で、当初計画していた検証の視点から、ビジネスモデルの実証事業としての成果を整理すると、次のようになります。

① 装置性能と作業性

- ・ 高齢の人など軽負担の作業に適性がある人であれば、原料が十分にあることで装置の性能いっぱいまで用いて働くことができます。
- ・ 原料の不純物を取り除く、原料を小さく割る、装置に投入する、生産品をまとめて置くなど、作業をいくつかの工程に分けることで、障害のある人などのそれぞれの適性を生かしつつ、一定時間継続できる作業としていくことができます。

② 小地域での拠点性発揮の検証

- ・ 今回の事業では、小地域の交流核であるスーパーとの連携関係について検証し、そこでの拠点性をどのようにつくるかできるかの検証を期待していましたが、成果を得るには至りませんでした。
- ・ 原料排出先が一般の営利企業である中で、いかに協力を得られるだけのビジネス上のメリットを提示できるかが問われます。スーパーに関して、そうした点で連携に至る条件整理がさらに必要なことが確認できました。

③ ビジネス連携の検証

- ・ 今回の事業では、発泡スチロールを大量に排出している企業に対して、ビジネス上のメリットが提示できることで、作業所の開設が進むことの検証を行うことを企図していましたが、しかし実際には、企業様の本業の臨機応変な展開との間で速度感を擦り合わせるのが難しく、検証に足る進捗が得られませんでした。

④ 従事者研修等の検証

- ・ 障害福祉施設において、利用者が「ちいさくな〜れ」を用いた毎日の作業をとっても楽しみにしているなど、この作業が知的障害のある人などの更生・授産に適していると言えます。
- ・ 確実な運転で装置トラブルがないなど、知的障害のある人に作業適性があり、適切な訓練により、将来作業所の従事者となることが期待できます。

⑤ 交流機能の検証

- ・ 原料調達に困難が大きく運営規模を縮小しましたが、交流機能面について企図した検証ができるまでには、到底至りませんでした。

5. 今後の事業展開に向けて

前項で整理した成果も踏まえつつ、以下に課題を取りまとめます。

① 事業計画力のアップ

- ・ 原料調達先の確保の困難が次第に明らかになったことで、作業所規模を 1 か所 1 台などとしましたが、これにより作業所を設置する場所の確保が問題となりました。
- ・ 当初計画での経費勘定に大きな間違いがあり、その再調整に相当の負担が生じたことで、事業推進に十分な力が注げなかった側面があります。

② 助成事業としての推進

- ・ スーパーとの設置交渉が頓挫した、相手様都合に合わせる必要があったなど、実際の事業推進においては、様々な状況変化に臨機に対応することが必要でした。
- ・ そのため、相手先のある事業を臨機に推進することと、助成事業としての進行管理をすることの調整に大きく労力を割くこととなりました。今後助成事業を行う場合には、こうした状況変化を見込んだ計画とする必要があります。

③ 未検証内容の扱い

- ・ 展示場型での運営は、原料調達の困難のため稼働開始が遅れたうえ、1 台設置に変更したことで、駅前・公開型という所期の展開ができませんでした。これについては、いったん保留することとします。
- ・ ビジネス連携の検証については、さらに継続してモデル事業を継続・拡大させて進める中で検討していくこととします。
- ・ 小地域での拠点性の発揮の検証については、連携可能なスーパーを見つけることを継続して行います。
- ・ これらには、作業所 A、B、E で用いている装置を、順次移設することを検討します。

④ 顕在化している課題への対応

- ・ 様々な立場の人から、本事業への関心をお寄せ頂いていますが、実際の作業所の開設を着実に進めていくことが重要です。使用済み発泡スチロールの大量排出先への設置を基本として、今ある 6 台の再配置・継続稼働を図って、ビジネスとしてのブラッシュアップと作業所展開の実績づくりを進めていく必要があります。
- ・ この間の事業推進に伴って、諸課題が顕在化してきています。今回、助成事業を通じて購入した 6 台の装置を、助成事業終了後も継続して適切に維持管理・運用していくことについても、併せて、さらに検討を進めていく必要があります。

⑤ 事業エリアの拡大

- ・ 京都府北部、大阪府、愛知県での展開可能性が見込める状況があり、係る取り組みを進めていきます。

<新聞記事>

京 都 府 桑 原 区 第46934号

2012年(平成24年) 10月12日 金曜日 (日刊)

地域就労モデル実験がスタート

京都市伏見区のNPO法人が、障害や心の病などで「働きづらさ」のある人の雇用と発泡スチロール再資源化推進を両立させる社会実験を始めた。スーパーなどにリサイクル装置を置き、障害者らが作業を担う就労モデルの普及を目指す。



一挙両得の仕事創出

スーパーで発泡スチロール処理作業

障害者雇用

京都市伏見区のNPO法人「みんなのNPO」が今秋、障害や心の病などで「働きづらさ」がある人の雇用と、発泡スチロールの再資源化推進を両立させる社会実験を始めた。スーパーなどに小型リサイクル装置を置き、障害者らが作業を担う就労モデルの普及を目指す。

リサイクル

みんなのNPOは、人を。を能力で排除しない社会。装置は車いすに乗ってを表現しようと、京都の社員や福祉関係者たちが昨年結成し、発泡スチロールの処理費が小規模店の負担になっている現状に着目した。障害者が社施設で9月に使い始め

伏見のNPO「地元の店 社会の扉に」



発泡スチロールのリサイクル装置。障害者らの就労玉手帳確立に向け、普及をを目指す(京都市伏見区・資源のコンビニ「横大路店」)

説明会を10月13、20、27や福祉施設が雇用して店日の午前10時から伏見に通うことも考えられ区横大路芝生の「資源のる。なじみのある店が地コンビニ「横大路店」で開域社会への扉になる。そんな展開を目指したい。NPOの広報代表と話す。みんなのNPO事(42)は「店が障害者 ☎075(603)75を直接雇ったり、NPO55。(高元昭典)



発行所 〒604-8577 京都市中京区烏丸通夷川上ル

京都新聞社 The Kyoto Shimbun Co., Ltd. © 京都新聞社 2012年

http://kyoto-np.jp/ 番号案内・受付 075(241)5430 読者応答室 075(241)5421 ご購読・配達は 0120-464-468

京ゆば 湯葉弥 旬の味覚にひとひらそえて。 京・五条御前東 電話三二四一五七八八 http://www.yubaya.co.jp/

Weather forecast table for Kyoto and surrounding areas including temperature and weather icons.

ふれあい広場

▽遺言・相続・離婚等くらしの無料相談会 20日前9時15分～11時45分、下京区のと・まち交流館京都。行政書士が相談にのる。要予約。予約・問い合わせは京都くらしの無料相談会・携帯電話090(8231)1762。

▽発泡スチロールリサイクルの体験・研修会 20、27日前10時、伏見区横大路芝生の資源のコンビニ横大路店。障害のある人が作業できるように開発された装置で、使用済みの発泡スチロールを原料としてスチレン樹脂を生産する仕事の体験と研修。参加費無料。申し込み・問い合わせはNPO法人みんなのNPO ☎075(603)7555。

▽明日をひろげる福祉機器展2012 20日前10時～後3時、上京区堀南通寺之内上ルの京都市立北総合支援学校。車いすや日常生活用具などの展示・体験、バザー、セミナー。入場無料。問い合わせは

さん。 2012.10.14. 京都新聞

▽暮らしのトラブル・困りごと無料相談会 20日後1時～5時、南区久世築山町の京都市久世ふれあいセンター。遺言・相続・離婚・交通事故などの相談に行政書士がのる。要予約。予約・問い合わせは同相談会・携帯電話080(3791)0878。

▽なかままつり2012 21日前10時～後3時、宇治市五ヶ庄二番割の宇治作業所。お楽しみステージ、模擬店、展示コーナー、ガレージセールなど。問い合わせは同作業所 ☎0774(32)2024。

▽ノエルまつり 21日前10時半～後2時半、大津市三大寺のノエルしごとの家。ステージ企画、模擬店、日用品バザー(正午～後1時半)、大抽選会。問い合わせは同家 ☎077(545)4121。

▽ミニ秋まつり 21日前11時～後2時、伏見区向島津田町のぐん

京 都 府 京 都 府 庁 開
2012年(平成24年)10月21日 日曜日

発泡スチロールを再利用

「みんなのNPO」が体験・研修

京都市伏見区のNPO法人「みんなのNPO」が13日、同区横大路の「資源のコンビニ横大路店」で発泡スチロールをリサイクルする体験・研修会を開いた。

障害など働きづらさのある人にとっての雇用創出と、発泡スチロールをポリスチレン樹脂に精製するリサイクルを、暮らしに身近な地域を単位と



して両立させようとする試み。本年度、独立行政法人福祉医療機構から助成金の交付を受けて、実証実験を行っている。

体験・研修会は、実際



に作業を体験したうえ、どうビジネスにつなげるか意見交換し

てもらおう狙いでこの日が3回目。この間、障害当事者と関係団体、商店街組合、ごみ減量に取り組む市民団体、企業など、関心を持つさまざまな立場の人が参加した一写真。

27日に最終回が予定され、発泡スチロールの処分に困っている事業者や、関心のある人の参加を呼びかけている。問い合わせは「みんなのNPO」 ☎075(603)7555。



発行所

TEL 0774-21-0011
FAX 0774-21-0022

福知山支局

TEL 0773-24-0675
FAX 0773-24-0676

http://www.kyoto-kensetsutimes.co.jp
e-mail:info@kyoto-kensetsutimes.co.jp

発泡スチロールリサイクルの体験研修会

社福法人、保護者らが参加

障害者就労モデルを紹介

みんなのNPO

NPO法人「みんなのNPO」(廣部出代表理事)が主催する「発泡スチロールリサイクル体験研修会」が20日、伏見区の資源のコンビニ横大路店で開催された。障害者就労モデルを確立しようと開催されたもので、社会福祉法人関係者や障害のある子どもを持つ保護者らが参

加した。車イスに乗ったまま安全に作業ができ、使用済み発泡スチロールをスチレン樹脂に加工する再資源化装置「ちいさくなくれ」の作業体験や、同法人が提案する障害者就労モデル事業の説明が行われた。同法人が身近にある使用済み資源と障害者雇用の「働きづらさ」に注目し、生まれた新たな障害者就労支援事業。障

害のある方が働きたいけれど働けない現実と、CO2を排出している使用済み資源の環境問題をクリアしたビジネスモデルと紹介している。今回の事業モデルは、大量の発泡スチロールを排出し、処理費が負担となっている地域のスーパーや鮮魚店、電気店等に再資源化装置「ちいさくなくれ」を設置してもらい、その装置を

使って障害を持つ人々が作業することで雇用が生まれ、生産した高品質スチレン樹脂を、再資源化装置を開発した京都府再資源化事業協同組合(中谷延幸理事長)が買い取る仕組みを提

案している。この日の研修会には、京(みやこ)エコロジーの岩松洋事業部長や、マウンテンバイクのプロとして京都に拠点を置き活躍する小野寺健氏が訪れるなど、将来的に



実際に再資源化装置を体験する参加者ら



新たな障害者就労モデルを紹介した。

障害者らが就労できる事業として注目されている。研修会は、これまでに3回開催されており、27日(土)には伏見区の資源のコンビニ横大路店で開催される予定。将来的に参加を検討する事業者や就労希望者らを対象としており、今後、参加者からの意見も踏

まえ、実際に雇用するまでの環境づくりや生産量、採算性等を検証し事業の具体化を図る考え。また、同法人では事業実施に向けた取り組みとして、奈良県橿原市の社会福祉施設で資源化装置を設置しているほか、今後、城陽市の事業所にも設置する見通し。

<実機を用いた体験・研修会での参加者募集チラシ>

参加無料

独立行政法人福祉医療機構 平成 24 年度社会福祉振興助成事業
「PS 樹脂生産の障害者等作業所モデル事業」

発泡スチロールリサイクルの 体験・研修会！

- ★ 使用済発泡スチロールを原料としてスチレン樹脂を生産する仕事の体験・研修会です。
- ★ 用いる装置は、障害のある人が作業できるように開発されています。
- ★ 障害のある人とそのご家族の方、是非ご参加下さい。
- ★ スーパーや電気店など多量の発泡スチロールの処分にお困りのお店の社長様、是非ご参加下さい。 **処理費が“無料”になります！！**



開催日： **会場1** (伏見区) 9/22(土)・10/13(土)・20(土)・27(土)

会場2 (城陽市) 9/29(土) 時間：10:00~13:00
(9/22のみ 14:00~16:00)

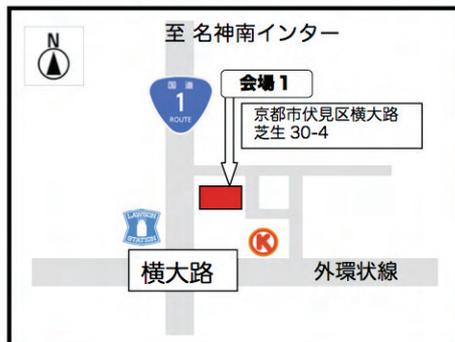
お問い合わせは
コチラ！

主催：特定非営利活動法人 みんなのNPO
TEL：075-603-7555 FAX：075-603-7774
e-mail：minna.no.npo@gmail.com
協力：京都府再資源化事業協同組合

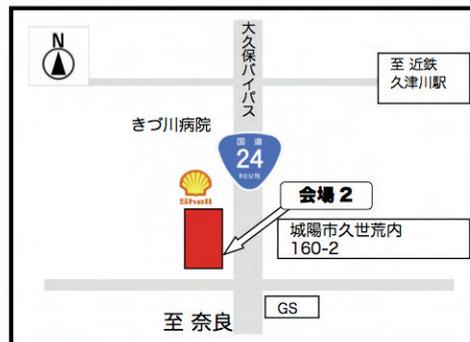


- 参加ご希望の方は、上記問い合わせ先までご連絡ください！
- 参加希望日・参加人数・代表者名・ご連絡先をお聞かせ頂き、先着順にて調整の上、ご案内申し上げます。

■資源のコンビニ横大路店 様



■株式会社ナプラス 様



< 寄付募集のチラシ >

公益財団法人 京都地域創造基金の事業指定寄付募集プログラムに採択

みんなの「働く」をつくろう 発泡スチロールのリサイクルで 「働く」をつくる!

寄付
募集中

「働きづらさ」のある人の「働く」をつくるために、あなたの寄付で応援してください。



働くことには、生活に必要な収入を得るというだけではなく、私たちに地域社会の一員としての実感をもたらすという、大切な意義があります。世間には、障害がある、高齢である、治療中で活動に制約がある、虐待を受けて育った、などといった様々な条件からの、多岐にわたる「働きづらさ」があります。

私たちは、こうした多様な「働きづらさ」を包摂(ほうせつ)する地域社会の実現に少しでも寄与すべく活動を進めているところです。その第一歩として、資源循環型社会づくりに貢献する発泡スチロール・リサイクルの作業場を開設し、障害のある人や高齢の人などが軽負担で継続して従事できる地域雇用を創出する事業を進めています。

これまで、発泡スチロールの多くが産業廃棄物としてコストをかけて焼却処分されてきました。私たちは、障害のある人や高齢の人などが専用の機械を使って発泡スチロールを再利用可能なスチレン樹脂を製造する作業場をつくります。専用の機械は、障害のある人などが簡単に取り扱える機械です。

小地域ごとにつくる作業場は、「働きづらさ」のある人が、地域社会の一員として地域社会に貢献しながら働く場となり、また、職業能力開発・訓練の場ともなります。



私たちの
これまでの
取り組み

平成24年度、独立行政法人福祉医療機構による社会福祉振興助成を受けて、この事業のパイロットモデルとなる取り組み

「PS(ポリスチレン)樹脂生産の障害者等作業所モデル事業」を実施しています。その中で、使用済み発泡スチロールの確保に向けた商店街やスーパーなどへの働きかけ、社会福祉法人や当事者・関係機関などの支援・協力者のネットワークづくり、実際の収益性の実証実験等を行なっているところです。



団体の概要



私たちは、人と地域社会のしなやかさを大切に考えます。そのために、みんなの多様性に応えるインクルーシブな「働く」を丁寧に開発し、新しい雇用を創出します。再生可能資源の新たな循環をみんなでつくり、みんなで集めた資源を用いて、みんなのリサイクル製品の製造・販売に取り組みます。

特定非営利活動法人 **みんなのNPO**

T612-8246
京都市伏見区横大跡立生30番地4 京都中央ビル2階

ご寄付は、公益財団法人京都地域創造基金を通じて受け付けています。

募集総額 **3,500,000円**

受付期間
2017年12月1日～2018年11月30日

350万円で

1台の専用機械を購入し作業場を開設できます。1台の機械で、1ヶ月あたり最大10万円の収益を得ることができ、「働きづらさ」のある人に継続した働く場を創出できます。

ご寄付の入金方法

個人の方へは、必ず京都地域創造基金に寄付申込書を記入し、寄付申込は京都地域創造基金のHP上でのご入力、またはHPから申込書をダウンロードしAXAでの振込が可能です。

振付振込 京都信用金庫 銀行1番121000054 口座名義:みんなのNPO

公益財団法人 京都地域創造基金

000004-01-020602 口座名義:みんなのNPO

京都地域創造基金専用口座 振込先:みんなのNPO

クレジットカード VISA 口座振込はできません

現金 京都地域創造基金まで、直接お届きください

〒600-8104 京都市下京区五条通南白河入万寿寺町143 いづつビル3階

ご寄付は税制優遇措置の対象です。

個人の方も法人も、ご寄付は税制優遇措置の対象です。詳しくは、京都地域創造基金のウェブサイトをご覧ください。

事業の進捗や成果などの情報を迅速に公開します。

寄付金の使途をはじめ、事業の成果や社会への影響などを、ウェブサイトやチラシ、メールなどで積極的に報告しています。

お問い合わせ

公益財団法人
京都地域創造基金
PLUS SOCIAL

「市民活動を支えるのは市民社会というコンセプトのもと、市民活動の活動を促進し、社会をつくるため、NPO法人の活動を支援し、より良い社会をつくること。市民社会の発展の社会活動の推進に貢献し、寄付金の活用について報告すること。京都NPO・市民活動の発展に貢献することを目的としています。

T600-8104

京都市下京区五条通南白河入万寿寺町143 いづつビル3階

電話:075-354-8792

E-mail: office@plus-social.jp

<http://plus-social.jp>

PS（ポリスチレン）樹脂生産の
障害者等作業所モデル事業

＜事業成果報告書＞

発行：特定非営利活動法人 みんなのNPO
〒612-8246 京都市伏見区横大路芝生 30 番地 4
TEL：075-603-7555 FAX：075-603-7774
e-mail：minna.no.npo@gmail.com

事業助成：WAM 独立行政法人福祉医療機構



社会的認証ステップ3取得